

自転車および電動キックボード利用における交通ルール順守意識の現状と課題

鴻野圭佑

本研究は、近年の交通事故増加傾向にある自転車と電動キックボードに着目し、その現状と課題を分析することで、安全な利用に向けた対策を提案することを目的としている。自転車は手軽な移動手段として広く利用されている反面、歩行者との接触事故や車道での巻き込み事故といった重大な事故も発生しており、近年急速に普及している電動キックボードも、交通ルールを順守しない利用者による事故やトラブルが後を絶たない。このような背景から、本研究では自転車と電動キックボード利用者の交通安全意識に着目し、先行研究の調査、歴史的背景の分析、事故の発生状況の調査、交通ルールの確認、そして過去の事故事例の分析を通して、交通安全意識の向上を目指している。研究を通して明らかになったのは、多くの人が自転車の交通ルールを知っているにもかかわらず、実際の順守率は低い傾向にあり、特にヘルメットの着用、歩道通行時の歩行者優先、携帯電話の使用禁止といった基本的なルールが十分に守られていないという問題点である。また、自動車運転者に見られる「自分は大丈夫」という過信、すなわち楽観主義バイアスは、自転車や電動キックボードの運転者にも共通する可能性が示唆され、運転に慣れたり、運転技術に自信を持つほど注意が散漫になり、危険を認識しにくくなる傾向が見られた。

歴史的観点からは、自転車は明治時代に輸入されて以降、大衆化、様々な用途への利用拡大を経て、ママチャリや電動アシスト自転車の登場によって利用がさらに多様化しており、電動キックボードは近年急速に普及し、都市部を中心に短距離移動の手段として定着しつつある。交通事故の現状と特徴としては、自転車関連事故は近年増加傾向にあり、自動車との出会い頭衝突が最も多く、安全確認不足や一時停止を怠ることが主な原因となっている。電動キックボードの事故も同様に増加傾向にあり、バランスを崩しやすい、ハンドルをとられやすいといった特性も事故につながる要因となっている。交通ルールの重要性については、「自転車安全利用五則」や近年改正された道路交通法（ヘルメット着用の努力義務化、青切符の導入）の重要性を改めて確認し、電動キックボードに関しては、特定小型原動機付自転車の基準や、走行場所などについて詳しく説明を行った。過去に発生した自転車と電動キックボードの事故事例を分析した結果、前方不注意、悪天候下での予測不足、交差点での確認不足、飛び出しに対する注意不足など、状況に応じた適切な注意と確認が欠けている点が共通していることが明らかになった。さらに、事故事例を引用し、ヘルメット着用が重大な事故から身を守るために非常に重要であることを強調した。

これらの分析結果に基づき、本研究では交通安全意識の向上と事故防止のための具体的

な対策として、交通安全教育の強化、ヘルメット着用の徹底、違反に対する罰則の強化、自転車専用レーンや歩行者と自転車が共存できる空間の整備推進、シェアリングサービス事業者による安全教育の徹底、そしてメディアによる啓発活動などを提案する。